

## 平成28年度第3回野菜需給・価格情報委員会の意見概要

1 日時  
平成29年3月17日（金）13:30～15:30

2 場所  
独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

### 3 概要

「平成28年産秋冬野菜の需給・価格の実績」（資料1）の説明の後、3月10日開催の消費分科会で出された春野菜の需要見通し等を踏まえて意見交換を行い、「平成29年産春野菜の需給・価格の見通し」（資料4）について藤島座長が取りまとめ、機構HPで公表することについて各委員の了承を得た。

平成29年産春野菜の需給・価格の見通し等に関する委員からの意見の概要は以下のとおり。

#### (1) 春キャベツ（4～6月）

##### ① 供給見通し

- ・ 作付面積：千葉、神奈川、愛知等は概ね前年並。
- ・ 生育状況：千葉は、定植作業は順調に行われ、強風の影響はあったものの、その後の生育は順調となっている。神奈川は、干ばつによる生育遅れとなっているが回復傾向。愛知は、各作型ともに生育順調で作柄は良好となっている。
- ・ 出荷開始：愛知で2月中旬、千葉・神奈川で3月下旬。
- ・ 出荷量は、主産地の生育は順調であることから、各月とも平年並みの出荷の見込み。ただし、寒玉は、慢性的に不足気味で、九州産地がこれまでの前進出荷等で切り上がりが早まる可能性もある。

##### ② 需要・価格見通し

- ・ 売場では、原体野菜からカットサラダに販売がシフトしている傾向が見られる。気温は、ほぼ平年並の予報であり、加熱調理機会の増加も見込め、旬の寒玉と春系の併売で需要喚起等が図られ、需要増加を見込む。
- ・ 寒玉が品薄な状況の中、中国産の引き合いが増加。
- ・ 出荷期間を通じて、出荷は平年並みであることから、価格は平年並みの見込み。

#### (2) 春だいこん（4～6月）

##### ① 供給見通し

- ・ 作付面積：北海道で前年比101%、千葉で100%、長崎で103%。
- ・ 生育状況：北海道は、播種は概ね順調で生育も順調。千葉は、生育は順調だが一部で3月の強風の影響が見られる。長崎は、播種は平年並みに開始され、生育は順調となっている。
- ・ 出荷開始：千葉・長崎で3月上旬、北海道で5月上旬。
- ・ 出荷量は、主産地でほぼ順調な生育となっていることから、出荷期間を通じて、出荷は平年並みの見込み。ただし、6月以降は、長崎の切り上がりが早いと見込まれ、その影響によっては平年を下回る可能性。

##### ② 需要・価格見通し

- ・売場では、昨年の価格高騰で1/2カット売りが定着して1本売りに戻っていないところが見られる一方で、カット売りによる適量ニーズへの対応等により需要が増加するとの見方もあることから、需要は平年並みを見込む。
- ・加工需要等は、冬期の需要が落ち着き、徐々に減少傾向。
- ・出荷期間を通じて、出荷は平年並みであることから、価格は平年並みの見込み。  
ただし、5月以降は、長崎の切り上がりが見込まれ、その影響によっては、出荷は平年を下回り、価格は平年を上回る可能性。

### (3) たまねぎ（4～6月）

#### ① 供給見通し

- ・作付面積：兵庫で前年比100%、佐賀で90%。
- ・生育状況：兵庫は、降雨のため一部定植遅れが見られるものの、生育は概ね順調。佐賀は、「極早生」・「早生」は当初やや軟弱な生育だったが現在は回復。なお、一部には病害が見受けられる。
- ・出荷開始：佐賀は「極早生」が3月下旬、「早生」が4月下旬、「中生」が5月下旬。兵庫は「極早生」・「早生」が5月上旬、「中生」が5月下旬。北海道は6月まで貯蔵物の残量出荷。
- ・北海道の貯蔵残量が前年よりも少ない見込みだが、計画的な出荷を進めており、終了時期は平年並み。ただし、佐賀の作付面積が減少し、一部で病害が見受けられることから期間を通して平年を下回る出荷の見込み。

#### ② 需要・価格見通し

- ・売場では、たまねぎを使用したカットサラダの販売が増加傾向にあり、需要増加を見込む。
- ・北海道の貯蔵残量が少なく、佐賀の作付面積の減少や一部で病害が発生している状況から、出荷期間を通じて出荷は平年を下回り、価格は平年を上回る見込み。

### (4) 春夏にんじん（4～7月）

#### ① 供給見通し

- ・作付面積：北海道で前年比97%、青森98%、千葉98%、徳島99%、長崎100%。
- ・生育状況：北海道・青森は、3月の降雪の影響で播種開始は中旬以降となる見込み。千葉は、播種後の生育は順調。徳島は、9月の長雨で若干播種は遅れたものの、その後の生育は順調。長崎は、順調な生育となっている。
- ・出荷開始：徳島で3月上旬、長崎で3月下旬、千葉で4月下旬、北海道・青森で6月下旬の見込み。
- ・主産地の徳島が順調であり、北海道および千葉の生育も順調なことから、出荷期間を通じて平年並みとなる見込み。  
ただし、7月は北海道等が3月の降雪で播種が遅れたことによる影響によっては、平年を下回る可能性。

#### ② 需要・価格見通し

- ・気温は、ほぼ平年並みの予報であり、加熱調理機会の増加も見込め、需要増加を見込む。
- ・加工需要では、国内産地の端境期に伴い、中国産の価格が安定していることもあり、輸入品での代替に進む可能性もある。
- ・主産地の生育が順調であり、出荷期間を通じて出荷は平年並みであることから、価格は平年並みの見込み。

ただし、7月は、北海道等が3月の降雪で播種が遅れたことによる影響によっては、出荷が平年を下回り、価格は平年を上回る可能性。

(5) 春はくさい（4～6月）

① 供給見通し

- ・ 作付面積：茨城で前年比101%、長野で96%。
- ・ 生育状況：茨城は、秋冬作の切り上がり早く、定植が前倒しとなった。長野は、定植作業は予定どおりに進み、生育は順調。
- ・ 出荷開始：茨城で3月下旬、長野で5月中旬。
- ・ 4月及び5月は、茨城の作付面積が増加したものの、干ばつによる影響があることから平年並みの見込み。6月は長野の作付面積は減少しているものの、生育・出荷は順調となる見通しから、平年並みとなる見込み。

② 需要・価格見通し

- ・ 一般消費者の需要期ではないため、市況の影響が出やすいが、需要は平年並みを見込む。
- ・ 加工需要は、秋冬物の価格高騰で在庫保有率が少ない状況であり、春物の引き合いが強まる可能性。
- ・ 4月及び5月は、茨城の作付面積の増加したものの、干ばつによる影響があり、出荷は平年並みであることから、価格は平年並みの見込み。  
6月は、長野産の生育が順調で出荷は平年並みであることから、価格は平年並みの見込み。

(6) 春レタス（4～5月）

① 供給見通し

- ・ 作付面積：茨城・兵庫で前年比100%、長野で93%。
- ・ 生育状況：茨城は、1月の日照量が多かったことや天候が安定したことから生育は順調となっている。長野の生育も順調。兵庫は、年明けの低温で生育の遅れがあったものの、現在は回復している。
- ・ 出荷開始：茨城で3月上旬、兵庫で3月中旬、長野で4月中旬。
- ・ 長野の作付面積が減少しているものの、長野を含め主産地の生育が順調であることから、4月、5月ともに平年並みの出荷が見込まれる。

② 需要・価格見通し

- ・ 売場では、原体野菜からカットサラダに販売がシフトしている傾向が見られる。需要は平年並みを見込む。
- ・ 加工用では、台湾産の残量が多く一部では投げ売りとなっている。
- ・ 出荷期間を通じて、出荷は平年並みであることから、価格は平年並みの見込み。

(7) きゅうり（4～6月）

① 供給見通し

- ・ 中心となる宮崎、佐賀、群馬、埼玉等は前年並みの作付。
- ・ 関東産地、九州産地ともに順調な生育となっている。
- ・ 主産地の生育が順調であることから、出荷量は、4月、5月は平年を上回り、6月は平年並

みの見込み。

② 需要・価格見通し

- ・サラダの食卓登場頻度が上昇している傾向が見られる。需要は平年並みを見込む。
- ・なお、例年通り、4月以降の加工需要は徐々に上昇する傾向にある。
- ・4月及び5月は、樹勢が強く豊作基調であることから、出荷は平年を上回り、価格は需要期で引きがあることから平年並みを見込む。6月は、出荷は平年並であることから、価格は平年並みの見込み。

(8) トマト(4～6月)

① 供給見通し

- ・熊本、栃木、愛知等の作付面積は前年並み。
- ・出荷量は、関東産は4月までは、樹勢強く豊作基調であることから、平年を上回る見込み。5月以降は、熊本の作型変更により出荷の変動はあるものの、概ね平年並みの見通し。

② 需要・価格見通し

- ・サラダの食卓登場頻度が上昇傾向にある一方、売場では、大玉トマトからミニトマトへの販売がシフトする傾向が見られる。需要は平年並みを見込む。
- ・4月は、樹勢が強く豊作基調であることから、出荷は平年を上回り、価格は平年を下回る見込み。5月以降は、出荷が平年並みであることから、価格は平年並みの見込み。

(9) ねぎ(4～6月)

① 供給見通し

- ・千葉、埼玉、茨城等の関東産地が中心の出荷で、作付面積は前年並み。
- ・茨城等の主産地で順調な生育となっていることから、出荷量は各月とも平年並みの見込み。

② 需要・価格見通し

- ・鍋需要期から薬味需要期となり、売場ではバラ売りの比率が高まり、薬味カットねぎの需要が増加する傾向が見られる。需要は平年並みを見込む。
- ・加工需要においては、国産の価格が平年並みであっても、中国産が半分の価格で推移していることもあり一定の輸入の需要はある。
- ・出荷期間を通じて、出荷は平年並みであることから、価格は平年並みの見込み。

(10) その他、春野菜全体の主な消費の動向等

① 昨年10～12月の野菜価格高騰以降の状況について

- i 昨年の価格高騰時に主要品目の輸入野菜が増加したが、その後の動き及び今後の見通しはどうか。
  - 国産野菜の価格が安定するとともに落ち着きつつある。
  - 生産者の減少、高齢化による作付面積減で相場上昇傾向は避けられず、消費者が感じる値頃とかけ離れつつある為、輸入増加は避けられないのではないか。

ii カット野菜、冷凍野菜、漬物、工場野菜については、昨年の価格高騰時に消費が増加したが、その後の消費動向はどうか。例えば価格が落ち着いて以降も、価格高騰時前（平時）よりも消費量が増加して推移する等の変化があるか。

→ カット野菜は価格高騰前から110%を超える伸び率であり、価格高騰時に伸長した後も、商品は高騰時前の伸び率で推移しており引き続き増加傾向。

→ ニューファミリー世代中心に簡便需要が増している感あり。

→ カット野菜の消費は伸びたが、国産野菜の価格が安定して原体野菜の消費に戻る消費者もいる。また、価格高騰時に値頃感を出すために1/2カットで販売したが、その後価格の安定とともに徐々に原体に消費は戻ってきてはいるが、以前より少ない状況。

→ 一般野菜が価格安定すれば、消費者はすぐに戻る。

→ 冷凍野菜の消費が増加する中、冷凍野菜に国産化の動きがある。

iii 上記②の動向を踏まえて、今後どのような対応を考えているか。

→ カット野菜は消費量増加は今後も続く為、取扱い品目を増加させる。

→ 世代ごとのニーズが多様化しており、販売側もニーズに沿った戦略が必要と感じている。価格訴求する輸入農産物や簡便訴求するカットサラダ、高級志向に対するこだわり品開発等に対応していく。

→ 価格高騰時に野菜の調達に苦慮したため、安定調達ができるように産地直送など市場外流通の商品（こだわり野菜など）を消費者に提案していく。

→ カット野菜業者は、流通市場で低価格で野菜を求める割には、製品は高価格を保ち、野菜価格の高騰につながり、工場野菜はその栄養価の低さに不安が残る。

② 今春の注目すべき野菜はどのようなものがありますか。主要品目以外の野菜でお願いします。

→ アスパラガス

→ スナップエンドウ・マッシュルームは本年も注目。他に「ビーツ」「ケール」等は業界内の動向見ながらチャレンジする予定。

→ 産地直送（こだわり品）サラダ系野菜に注目（サラダたまねぎ）。

→ たけのこ、山菜等の旬の春物が中心に動くように思う。

→ 枝豆、国産パプリカ、スナップエンドウは居酒屋での消費が伸長。